二一六号の表紙説「當午経」のある石像

表紙の石像は、三十三観音巡りの際、佐伯市大入島高松浦の大休庵横の庚申塔、無縫塔等の石塔群の一角にあった。

石面の摩耗が激しいが「高松浦講中・享保十九年」の銘が見受けられる。

當午の文字は、佐伯市切畑の千人塚「日輪當午塔」や臼杵市野津町大字西野字田中の田中神社横、臨川庵跡石塔群の一つに見られる。

臨川庵跡の石塔には、「日輪當午経一石一字塔延享四丁卯年（一七四七）二月廿六日　田中村施之与平治」の文字が見られる。

當午（當午経）の文字のある石塔は県下には少ないと言われている。

大休庵や臨川庵跡には多くの石塔が残されており、地域の信仰の姿がかいま見える。

當午経は法華経の別名である。

←臼杵市野津町大字西畑字田中の「臨川庵」の石塔群と日輪當午経一石一字塔